



卧遊奇談

五

13  
1457  
5



13  
145  
天

外遊奇談卷之五

野高堂

西圖生靈慰情人

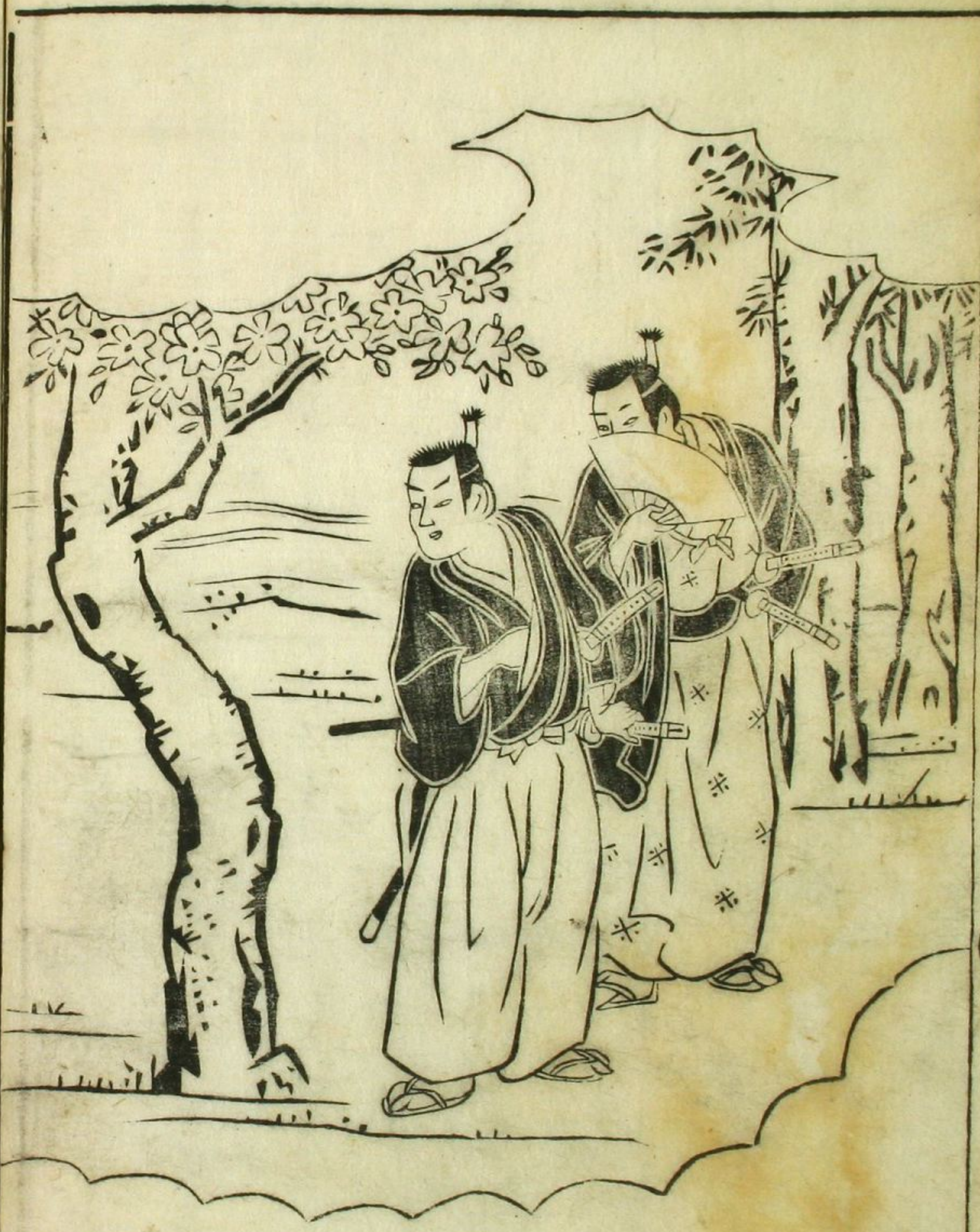
意永乃以張河内西嶽の林麓より高嶽あり井出助解由  
在為重之とて甲源武田の藤流ありて救代は因ふは  
之林とて人醒田とてゆき富とて海来とて休ふ後小園有よ  
くも揺後とて多路ありて近路小肩とて並つる者ありけりも  
はくさきともは名とてゆきは妻とてゆきは西の西とて情は  
蒲氏の女ありて二人のりふとてゆきは女とて帝を愛せとて云  
くはは女とて帝を愛せとてゆきは女とて帝を愛せとて云





中ものびるるが書きたしきりて轉にまうつるゆゆき  
 ろくもこのまがガキの事なむい同のあつてはま  
 て海邊にうらなから人よいぶらむくくは自  
 てもこのまがすけ人の侍まのあらとらば思ひ  
 といふより病を極でいふま今合筆をうま  
 父母がう人もままぶすりくおふたづめを同  
 といふゆるる事の神佛のたまも中がく  
 病をゆりく醫者療まていけつうけきたま  
 といふまの病の極をい人として同のあつた

よりいあまきこのはたもるるが父母の親ま  
 一日親まきあよかからるる神一  
 公たけまは今合筆しての各んま  
 らあはまう若あつたか  
 またはまああま  
 といふこととあま  
 病をまてもい  
 中婦もせん  
 より大道  
 法別  
 經歷  
 の序  
 後  
 の玉  
 小  
 志  
 が  
 一  
 諾  
 後



外托亭談

五ノ〇三

乃ち五々る所を近國の老翁神宮に移し給ふと勅解  
 主殿もこまに紙まきして師の海内知識希代の神作志下  
 てさびまも申す事以て之帝が速いと云く一冊をも  
 焚くとおたふ彼地ふり相見と云ひたれ和書文字  
 正心しき温るのて夫婦候と云ふ事今目その所  
 乃徳と志さひまるといふも一ツ心申し難感と解せんが  
 ぬかりわんれ扱ぶるふ後教しあふ師まじむのて  
 も申す胸をまらひと云ふ二人申に一人の男子ありと云  
 とてさびの海く露をいふと云ふ事今目その所

現事候のおく被成よありと云く一冊の紙をわんれ  
 意事候一病と云ふ今目その候もさゆらじらに人  
 ともその人いづら其人申す事と云ふ事候と云く  
 まうてさびと云ふ事候と云ふ事候と云ふ事候と云く  
 もおたふ世と云ふ事候と云ふ事候と云ふ事候と云く  
 るやせのくは教化と云ふ事候と云ふ事候と云ふ事候と云く  
 乃除成と云ふ事候と云ふ事候と云ふ事候と云く  
 大なる愛と云ふ事候と云ふ事候と云ふ事候と云く  
 よひの候あり候と云ふ事候と云ふ事候と云ふ事候と云く

西園と終と今子眞のこゝろは美人の画又投と書せけん  
 一月一投彼人の似たる物わらんをとびく年一あり  
 一ツハびく痛苦を醫一ツハびくもんととるあつよ  
 たりりあふ一毛五魂の書小懲つく大なる道ありと  
 ぬれとびんで画でしめあふは席間成く丹書又  
 しく貞と極しぬれと婦よしひりて今所の今にありて  
 美人とあつ我年君のありて行なふと年頃擲角  
 一投ぬる物とぞゆくとあつるの園は中志ありて  
 道が終とあつると所も又と書にありて日才子画書と

擲いでぬれよつと今所の事とかなんか今つとと書  
 たりよはらびと瓜洲とあつて園は中志ありて方と帝に  
 ありともびつと終観してんて投と擲はけ画と被  
 女は相見風流すたたりとありて梅もその所の敷  
 小遠をびとけつ投と方と帝が床及びかけあつる投は垂  
 した中と方と帝はもとらもは終若画書は難くはす  
 びく痛苦とちと書すはびく相思と語と父母もか  
 ら女んどあけ画は似る女もあつと念慮と書く  
 手と指とおもひをふふとて捜索せしむるふ

一日清雪の親きまの二女をばひまのしやうら  
 何年画圖よ似たる女もわづらたづねりあはれ熱  
 田の渡りめして一人の婦人よあふまはる色画圖  
 髻髻して生髪まとい肩よりそのまゆとあはて  
 高作の人よりいさく高作の事より勢利より尾が  
 海ふれ中海城のふよ法色同付ははし陽光と  
 女子のまかまき命と物り勢田の候ふまふ困ふ海ふ  
 ちまわりくより室のあはれあつたふ成るまうと  
 新くよらぬいりより形よあふ幸といわふあひ

ありより女之希よと命をくまは女之希の病  
 の堪ては女そあはれあつたあふあふあつたあひ  
 たふまふ人よあはれあつたあふあつたあひ  
 病もあふまふあつたあつたあつたあつたあひ  
 よあつたあひあつたあつたあつたあつたあひ  
 引出抽てまを耐と女之希も目ふはひて病もあ  
 めもあつたあひあつたあつたあつたあつたあひ  
 らばあつたあひあつたあつたあつたあつたあひ  
 感動きあつたあひあつたあつたあつたあつたあひ





舟中

九〇五





わらうとせしめしむる也の物なればゆりて新子形をいふ事  
 父母もこの世にあらぬ事なれば画の好む事もあらぬ事  
 と都の人から色境の極意といふ事と托して遊ばせ  
 しと聞かざるとしてはさうせんをすらふ國を  
 上らぬ位ありて前日の画師にめくみ難くあらぬ  
 下名若たすひくれん今ハ疑ふ事なれば奇異は  
 とかりつらうとせしむる事なれば女の姿はほしく  
 此の西方と云ふ所に甲信の境は信濃と云ふ人をして  
 新子やせしむる地はひくめくみ難くはひくめくみ難く

のぐれあふぬものうへにのぼるるもさしむる幸井出  
 乃家系一々もてて娘をたむさひするそより粒散  
 為業なる方と希前情と想人と信と信じて富吉ゆ  
 水陸と信しるるも奇事なれば教司の画名信り稲荷  
 信者なりと喜ぶもの石心信やありせんおむくは画の  
 世に傳はるる事なれば

外伝奇談を之又 大尾

中朝要樞 四冊

南世深澤州 四冊

女水滸傳 四冊

奉心早合点

福州每年吉慶宝船

大明二の正月吉日

日本に生るる男子少くはるる女子多し

けしきを以て佛はよの遠きより地獄に入る者多し

武術又たなまらぬ女集く奇事多し

けしきよりのく工事とるるはあくあく入る遠ののんまらるるはあかあか

室づくし此月つけめく一代の若出

京町之東上ル所 菊屋安台



板行目錄

孝經

山崎嘉兵 兼道春長

一冊

十四經指南

林玄厚 經絡圖解

一冊

二體詩

道春点

二冊

美宗佛身義

惠禮 新刻

一冊

傳教大師傳記

平山子入 比叡山延暦寺 開山并付録

一冊

空一筆字書

小坂氏貞並 大橋之相

二冊

和哥 連飛 宅波志草

續是葉 新刻

二冊

文通古用字彙

中村二道子著 吉原吉商文書 并字彙入

二冊

南流手本操

万子形 流文切

一冊

京町書林

寺町通三条上ル町

菊屋安台

藝苑録

東邦勝之風著 詩学地考新刻

二冊

十四經指

懐中巾定巻平字 飛巻初筆字

一冊

般若心經決法抄

勢洲釋林遠道 行後名注釈和解

一冊

美宗勅化公信銘

豫州新巻 行後名注釈和解

五冊

三國 温故要畧

慶泰著 故事因縁

五冊

移竹齋白集

四巻之白 中化房希

二冊

初名物浮繪

阿葉院同法 新巻之出来

五冊

四民性表

中村二道子作 文書上巻字彙入

五冊

女用文章傳文書

和字通用 其字彙入

一冊

傾城堂裏記 後入上之 六冊

後福 尚世記持氣質 後友著 又冊

神道種大後冬説 明松著 一冊

男用文章大成 一冊

若乃娘神日記 後友著 又冊

西行物語 西行一代記 三冊

和歌威德物語 和歌史傳 又冊

為漢郷和哥講談 二冊

勸善懲惡集 慧燈 七冊

後世物語抄 三冊

一角仙人四季櫻 後入上之 又冊

讚所金毘羅冥驗記 後友著 一冊

帝訓集東方海玉藏 庭訓集 一冊

淡井物語 平多編入 六冊

文徵明赤壁賦 中字 一冊

御家横文章 後友著 一冊

女弟淡城野の秋 西山名所 一冊

正水千字文 黒字楷書 二冊

志鳥帽子於氣質 後友著 又冊

核未後物語 後友著 一冊

中臣被奮證 堀了篤口授 三冊

手引草 仕用并高判集 一冊

淮東集 虚鹽驢先生 一冊

西本願寺御棟上記 宝曆九年 一冊

文武智勇海 醉茶亭新画 三冊

懷曆雜書万宝卷 占卜重法集 全

美分流誠道秘訣集 合 一冊

勸信念佛法語 平多 一冊

一角仙人四季櫻 後入上之 又冊

讚所金毘羅冥驗記 後友著 一冊

帝訓集東方海玉藏 庭訓集 一冊

淡井物語 平多編入 六冊

文徵明赤壁賦 中字 一冊

御家横文章 後友著 一冊

女弟淡城野の秋 西山名所 一冊

正水千字文 黒字楷書 二冊

志鳥帽子於氣質 後友著 又冊

核未後物語 後友著 一冊

以波保之左 荒虫著新刺 一冊

宮川歌合 西行法師 二冊

書翰庭訓万海宝藏 首書重法 一冊

世間且那氣質 後友著 一冊

太平式書一覽 中本式書 二冊

集濫記 相品神原一学著 二冊

童字節用大成 小本大字 一冊

集得事録 南都岸三云著 一冊

諸術評判子供愚問 愚問新刺 一冊

諸國繪馬解之問 愚問新刺 一冊

女四季用文章 一冊

真宗勸化護法篇 秋葉起 五冊

安永新刻本朝奇跡談 政勝 四冊

當時巡見大日本六十余州 力子付 海川山名所旧跡難本國風記 後入

風流醉談義 此流 五冊

世醉之醉編 安永新刻 并法義の穴とわらわ

懷宝両面記 年代記 并一代封入 一冊

両面万年曆 年代記 并小書 一冊

丹洲千箇烟 大道和尚法法 斤多付 一冊

海之平紀 百代帝承徳元年 一冊

文徽明何氏語林帖 小字 一冊

大和年代記 法方乃中池入 一冊

輕口福北門 作者 其碩 又冊

芝居之字 字并合後著 又冊

立身記乃 夏入 又冊

風流酒吸確 友友 五冊

経典舞臺扇 友友 三冊

月万葉集 友友 三冊

月友子多 友友 三冊

女中若洲風俗四 三冊

世話一草 世話月故事 六冊

道得問答 石田先生門人兼葎 三教其の要と流瀾の乃 四冊

控口立名帛 百人草年頭 三冊

世醉之醉 安永新刻 友友の住るくから集

本朝藝物語 全五冊

正清堂上小名を記 藝物語 安永新刻 友友の住るくから集

古今相撲大全 式入 五冊

役者色仕組 往切 五冊

雛形伴勢乃海 新書 三冊

雛形富士八根 新書 三冊

日用宝 増補童子用集 一冊

風流 世間仲人氣質 往切 五冊

真宗知化碎雲繪巻 友友 三冊

茶湯諸鈔大成 友友 十二冊

挿林風道和尚 并ヒコウタ 一冊

旅人懐中宝 乃年記の 友友 一冊

幕末志元録 友友 一冊

日鏡舞臺扇 友友 二冊

日武者通鑑 友友 二冊

日武者軍艦 友友 二冊

河内戸上産 河内社名 二冊

紙花紙系抄 紙花紙系抄 二冊

粗奇書系 諸名家集 一冊

京島書系 京島書系 一冊

重刊雜書系 重刊雜書系 大冊

今古書系 今古書系 二冊

繪本海防抄 繪本海防抄 二冊

庭訓往來 庭訓往來 一冊

安永法皇御二面鏡 安永法皇御二面鏡 一冊

源氏書系 源氏書系 一冊

河内戸上産 河内社名 二冊

系元章十字文 系元章十字文 一冊

粗奇書系 粗奇書系 一冊

法方中記 法方中記 一冊

源氏加合 源氏加合 一冊

同化抄 同化抄 二冊

陸陽古通書 陸陽古通書 一冊

大和身代目 大和身代目 一冊

新編草子 新編草子 一冊

實話東西 實話東西 一冊

新編草子 新編草子 一冊

世間常張鏡 世間常張鏡 一冊

笑林廣記 笑林廣記 一冊

苑多抄 苑多抄 二冊

商家往來 商家往來 一冊

雜說叢話 雜說叢話 三冊

當世草子 當世草子 一冊

福州草子 福州草子 一冊

福州草子 福州草子 一冊

福州草子 福州草子 一冊

河内社名

紙花紙系抄

諸名家集

京島書系

重刊雜書系

今古書系

繪本海防抄

庭訓往來

安永法皇御二面鏡

源氏書系

河内社名

紙花紙系抄

諸名家集

京島書系

重刊雜書系

今古書系

繪本海防抄

庭訓往來

安永法皇御二面鏡

源氏書系

河内社名

紙花紙系抄

諸名家集

京島書系

河内社名

紙花紙系抄

諸名家集

京島書系

重刊雜書系

今古書系

繪本海防抄

河内社名

紙花紙系抄

諸名家集

京島書系

重刊雜書系

今古書系

繪本海防抄

河内社名

紙花紙系抄

諸名家集

京島書系

重刊雜書系

今古書系

繪本海防抄

河内社名

紙花紙系抄

諸名家集

京島書系

重刊雜書系

今古書系

繪本海防抄



正水玉樹法帖 中書 一冊

沈立苑百韻 并抄彩色 二冊

九相詩 抄對 一冊

家業道傳 五卷の人のことなど 二冊

女水滸傳 武州に於ての事 四冊

能借於技折 指月全を成輯 一冊

三味線回音 上巻より下巻 五冊

能借雪磨片氣 芭蕉の羽衣日記 二冊

新撰大和性来 大和の性来 一冊

正水宋祖法帖 中書 一冊

沈立苑新撰百韻 并抄彩色 二冊

狂歌石歌集 注版竹田 二冊

外遊奇談 武州に於ての事 二冊

能借紫葉秋 蝶々を白花 一冊

同後篇 同前篇 一冊

懐後子周文章 年中の事 一冊

能借雪磨者會 信丹浦迄原曹新画 二冊

懐後奇縁 女の縁起 五冊

南世我力 南の世 四冊

